

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業(予算)名	新鎌ヶ谷駅周辺整備に要する経費			作成課・係	画課まちづくり室								
政策名	3.1 魅力あるまちづくりを進めます			施策	3.1.1 広域交流拠点の整備		基本事業	3.1.1.1 広域交流拠点の基盤づくり					
関連計画・根拠法令等	①土地区画整理法		②	③	④								
事業区分	継続	前回総合評価	6.精査検証	実施計画掲載	無	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市	事業開始年度	平成15年度以前	事業終了予定年度	平成24年度
関連類似事業名	なし			予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	2	予算コード	0203		

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業		①事業数	業務取得
			②	
			③	
	(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典
	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業を推進するために必要な経費		①経費	業務取得
			②	
			③	
	(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	(基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典
	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業の着実な推進		①整備箇所数(完了事業数)	業務取得
			②新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業進捗率	業務取得
			③	
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
新鎌ヶ谷地区を躍動感と魅力ある広域交流拠点として誘導するための都市基盤整備を完了させる		①新鎌ヶ谷駅乗降客(1日あたり)	業務取得	
		②新鎌ヶ谷地区事業所数	業務取得	
		③		

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度( 年度) 今後の計画総額
	コスト・指標							
	(1)総事業費 自動計算	千円	60,668	59,341	57,850	51,762	0	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円						
	④一般財源	千円	60,668	59,341	57,850	51,762	0	
	(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間 /年	416	316	417	512	0	0
	①正職員(時間内)	時間 /年	400	300	400	500		
	②正職員(時間外)	時間 /年	16	16	17	12		
③非常勤職員	時間 /年							

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	事業	1	1	1	1	1
②								
③								
(2)活動指標	①	千円	63,083	60,668	59,341	57,850	51,762	
	②							
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	箇所	0	0	0	0		1
	②	%		12	12	23	23	30
	③							
(4)施策成果指標	①	人/日	82,597	84,332	87,550	89,864	調査中	92,000
	②	件	164	185	210	212	225	230
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	新鎌ヶ谷地区が都市軸構想における広域交流拠点として位置付けられた。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	事業主体である独立行政法人都市再生機構により、新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業が進捗し、一部で活性化が顕在化している。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業は完了し、今後、市街地の活性化が図られ、広域交流拠点となる。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	新鎌ヶ谷地区の利便性が向上している。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 都市軸の形成については、市の基本計画に位置付けられており、関与は妥当である。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 土地区画整理事業が進捗し、核の形成が実現しつつある。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 市の基本計画に基づくものであり、極めて公平である。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 既に開始している事業を一時的に廃止することは、違約金の問題を含め、今まで事業に協力した関係者に対して理由が立たない。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を削減する手段・方法はないか？ 今後発生するソフト面の施策には、コスト面での配慮を検討していく。
	(6)総合評価	1: 終了	(今後の方向内容) 事業の本来の目的である事業費償還は平成24年度で終了となったが、ソフト面における新鎌ヶ谷地区の地域活性化については、「新鎌ヶ谷地区広域交流拠点形成推進に要する経費」で実施する。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	さらに、ソフト面での施策については、地域住民と協働の視点で展開する。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	東武鎌ヶ谷駅周辺地区の、協働でのまちづくり手法を、事例として取りまとめ、参考とした。
	(3)平成25年度に取り組む改革・改善内容	※ 平成24年度までの事業のため、記載なし。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業(予算)名	新鎌ヶ谷地区広域交流拠点形成推進に要する経費			作成課・係	画課まちづくり室								
政策名	3.1 魅力あるまちづくりを進めます			施策	3.1.1 広域交流拠点の整備		基本事業	3.1.1.2 広域交流拠点機能の集積誘導					
関連計画・根拠法令等	①新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業 ②都市計画マスタープラン ③				④								
事業区分	継続	前回総合評価	7.拡充	実施計画掲載	無	行革推進対象	無	事業実施主体	3.市	事業開始年度	平成15年度以前	事業終了予定年度	平成33年度以降
関連類似事業名	なし			予算(款)	8	予算(項)	4	予算(目)	2	予算コード	0601		

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	新鎌ヶ谷センター地区		①面積	業務取得
			②	
			③	
	(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典
	①新鎌ヶ谷地区まちづくり実行委員会の開催(しんかま秋まつりの実施、地域によるまちづくりの組織化を図る。)		①まちづくり実行委員会の開催	業務取得
	②新鎌ヶ谷駅自由通路等の維持管理		②自由通路等清掃管理委託	業務取得
	③新鎌ヶ谷センター地区共同事業に伴う用地借上げ		③共同事業用地借上げ面積	業務取得
	(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	基本事業成果指標等	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典
	新鎌ヶ谷センター地区に広域交流拠点機能の集積を図るため、商業業務施設の誘致や地区の賑わいづくりの支援、まちづくりの組織化に対する支援を行う		①センター地区有効活用面積	業務取得
			②新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業進捗率	業務取得
			③	
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
他市町村からも人が集まり、賑わいのある県北西部を代表する広域交流拠点の形成を目指す。		①新鎌ヶ谷駅乗降客(1日あたり)	業務取得	
		②新鎌ヶ谷地区事業所数	業務取得	
		③		

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度) 今後の計画総額
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額	
(1)総事業費 自動計算		千円	24,228	23,488	23,575	24,073	27,331	0
	①国庫支出金	千円						
	②県支出金	千円						
	③市債・その他財源	千円	19,673	19,663	19,663	19,671	19,695	
	④一般財源	千円	4,555	3,825	3,912	4,402	7,636	
	(2)総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間/年	4781	3981	3543	4309	0	0
	①正職員(時間内)	時間/年	4291	3500	3000	3500		
	②正職員(時間外)	時間/年	199	340	340	324		
	③非常勤職員	時間/年	291	141	203	485		

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度( )年度 将来目標値
	(1)対象指標	①	ha	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6
②								
③								
(2)活動指標	①	回	8	6	12	8	11	
	②	件	2	2	2	2	2	
	③	m <sup>2</sup>	4,899.70	4,899.70	4,899.70	4,899.70	4,899.70	
(3)成果指標 ※基本事業成果 指標等	①	ha	6.0	6.3	6.7	6.7	6.8	
	②	%		12	12	23	23	(平成27年度)30
	③							
(4)施策成果指標	①	人/日	82,597	84,332	87,550	89,864	調査中	(平成27年度)92,000
	②	件	164	185	210	212	225	(平成27年度)230
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	平成7年から、広域交流拠点の形成をめざし、新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業を実施している。広域交流拠点を創出するためには、基盤整備だけでなく商業・業務・文化・娯楽等の都市機能を集積する必要があると考えた。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	平成16年3月に大規模商業施設がオープン後新鎌ヶ谷地区に進出を希望する企業が増加した。また、換地処分が完了しこれにより法的な手続きは終了した。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業が進むことに伴い、地区の人口の増加が予想される。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	議会では商業業務施設の誘致はまちづくりにとって、重要事項であると認識されている。日用雑貨品、食料品、高級品や流用品、家電製品や家具などの購入を市内で行いたいという市民意識調査の結果がある。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 新鎌ヶ谷地区は、総合基本計画においても、他市町村からも人が集まる、賑わいのある千葉県北西部を代表する広域交流拠点の形成を目指すことが示されており、市が積極的に推進する必要があり、市の関与は妥当といえる。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。 新鎌ヶ谷地区が総合基本計画及び都市計画マスタープランに位置づけられている人々が集まりにぎわう魅力あふれる広域交流拠点となる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 新鎌ヶ谷地区は、市民はもちろん周辺市町村の不特定多数の住民が利用する広域交流拠点を目指していることから妥当であると考えられる。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 新鎌ヶ谷地区を、市総合基本計画で位置づけている「魅力と活気あふれる広域交流拠点」とするため、センター地区を形成する拠点形成街区及び個別利用街区並びに近隣商業地区、都市計画道路沿いにおいて既に土地利用が進んでおり、事業の廃止は考えられない。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎではないか？ 事業費、所要時間を削減する手段・方法はないか？ 本事業は、新鎌ヶ谷地区を、広域交流拠点にふさわしい賑わいとふれあいのあるまちづくりを目指すことから、妥当と考えられる。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 新鎌ヶ谷地区を、総合基本計画に位置づけられている鎌ヶ谷市の顔となる広域交流拠点の形成を目指す。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	地域活性化については、企業等にも声掛けをすることで、市民主体の組織拡充を図るとともに、新鎌らしさについて検討し、魅力ある広域交流拠点となることを目指す。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	企業等に声掛けしたことで、市民・企業主体の新たなまちづくり組織の立上げに向けた準備会が開催された。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	市民・企業を主体とした新たなまちづくり組織の、正式な立上げを支援する。 組織立上げ後も支援を継続し、魅力ある広域交流拠点の形成を目指して連携しながら、新たな施策の検討・実施をしていく。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続する

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する